

(別添)

## スパルティナ・アルテルニフロラ(*Spartina alterniflora*)の概要

和名	スパルティナ・アルテルニフロラ
科名	イネ (Poaceae)
学名	<i>Spartina alterniflora</i>
英語名	Smooth Cordgrass, Salt-water Cordgrass, Atlantic Cordgrass, Saltmarsh Cordgrass
原産地	南北アメリカ (カナダ、アメリカ、アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ、仏領ギアナ、グルジア、グアドループ、ガイアナ、スリナム、トリニダードトバゴ)
侵入地	ヨーロッパ (イギリス、フランス、オランダ) ニュージーランド、オーストラリア、中国、インド
特徴	<p>汽水性多年生草本で、根を深く張り、高さは 0.4 ~ 2.5 m になる。一度形成された株は根茎を周りに広げながら毎年 1 m も生長する。海岸近くの河口域、塩沼地、干潟、砂浜に生育し、シルト、粘土、礫に適応できる。1 日に 12 時間以上の浸水、塩分濃度 1 ~ 5% といった広範囲の環境に耐性がある。カリフォルニアでの開花期は、7 ~ 9 月。花の数は豊富だが結実はずかかなものが多い。埋土種子集団は形成しない。種子は、数週間~数ヶ月間浮くことができ、風、水流、水鳥への付着により伝播されるほか根茎や植物体の切片から増殖できる。</p> <p>塩沼地の回復や土壌の浸食防止に利用された事例がある。</p>
確認の経緯	平成 23 年 4 月 3 日愛知県植物誌調査会の瀧崎吉伸氏により同定報告された。
想定される影響	<p>生態系に関わる被害</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・密生した株に堆積物が溜まり、侵入した地域で水環境を変化させる。</li><li>・在来植物を駆逐して単一の群落を形成するため、在来の植物や無脊椎動物の個体密度を引き下げる。</li><li>・干潟の環境を単一の種からなる植生に変えマコモ属やアツケシソウ属の在来種と競合し、駆逐する例や、水鳥の採餌場の縮小によりシギやチドリやカモ類のような渡り鳥にも深刻な影響を及ぼすと報告されている。梅田川 周辺では塩性湿地として貴重な干潟である六条干潟、汐川干潟の生態系に大きな影響を与える危険性が懸念される。</li></ul> <p>社会資本、産業に関わる被害</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・洪水の制御や船舶が航行する水路や入り江の障害となる可能性がある。</li><li>・六条干潟は愛知県における主要なアサリの稚貝の採捕地であり、その生産に悪影響を及ぼす可能性がある。</li></ul>
備考 (対策例)	<ul style="list-style-type: none"><li>・国際自然保護連合 (IUCN) の世界の外来種ワースト 100 に含まれているスパルティナ・アングリカは近縁種。</li><li>・手作業による抜取り、刈取りは最も簡便な防除方法であるが、長期間にわたり根茎を残さず、繰り返し駆除するとともに完全駆除までのモニタリングを継続することが必要。</li></ul>